

教育研究業績 I : 研究活動

2025年4月1日現在

1. 研究者情報

ORCID : 0000-0001-8908-4746 研究者番号 : 80320620 Researcher ID : 該当なし

2. 著書

【単著】

1. 江尻 桂子 (2000) 『乳児における音声発達の基礎過程』 風間書房

【共著 (分担執筆)】

2. 江尻桂子 (2021) 『通常学級で活かす特別支援教育概論』 柏崎秀子 (編) (担当節 : 第7章 : 発達段階に応じた支援のポイントの「第1節: 幼児期の支援」) ナカニシヤ出版 2021年8月刊行
3. 江尻桂子 (2021) 『有斐閣 現代心理学辞典』 (監修 : 子安増生・丹野義彦・箱田裕司) (担当項目 : 乳児期・喃語・マザリーズ・クーイング、感覚運動期など6項目) 有斐閣
4. 江尻桂子 (2019) 「言語を育む教育とは—幼児の発達を踏まえた言語環境・言語活動を考える—」 特集 I : 学習の基盤となる言語能力の育成 『初等教育資料』 No. 980 (2019年5月号) Pp. 82-85
5. 江尻桂子 (2013) 『最新・心理学事典』 藤永保 (監修) 内田伸子・繁耕算男・杉山憲司 (責任編集) (担当項目 : 言語分野の「初期言語」「非言語コミュニケーション」「母子相互作用」等) 平凡社
6. 江尻桂子 (2013) 『あたらしい言語障害のみかた・治療・教育』 石田勝義・橋本竜作・山路めぐみ (編) 古今社 (担当項目 : 「第5節 発話・身ぶり、手話表出の関連と発達」) p. 26-27. (150ページ中2ページ執筆)
7. 江尻桂子 (2012) 『新・発達心理学ハンドブック第4巻「発話・第4巻 発達の基盤 : 身体, 認知, 情動」』 日本発達心理学会 (編) / 根ヶ山光一・仲真紀子 (編) . 新曜社 148-156. (担当章 第II部 第13章 言語習得の身体的基盤)
8. 江尻桂子 (2011) 『特別支援教育における言語・コミュニケーション・読み書きに困難がある子どもの理解と支援』 (シリーズ きこえとことばの発達と支援) 大伴潔・大井学 (編) 学苑社 (担当項目 第1章 A1-A3 「ことばの発達を支えるもの」など) p. 7-24 (全224頁中17頁執筆) 2011年8月10日初版
9. 江尻桂子 (2010) 『子どもの暮らしの安全・安心～命の教育へ 第1巻 乳幼児期から小学校入学まで』 内田伸子・袖井孝子 (編) 金子書房 2010年5月27日発行 担当項目 : 「幼児は見知らぬ人からの誘いを断ることができるのか」 (p. 72-76) 「子どもはどのようにして命の大切さに気づくか」 (p. 103-107) 全142頁中10頁執筆
10. 江尻桂子 (2010) 『子どもの暮らしの安全・安心～命の教育へ 第2巻 児童期から青年期まで』 内田伸子・袖井孝子 (編) 金子書房 2010年5月27日発行 担当項目 : 「児童は見知らぬ人からの誘いを断ることができるのか」 (p. 24-28) 全147頁中5頁執筆
11. 江尻 桂子 (2010) 『よくわかる家族心理学』 柏木恵子 (編) ミネルヴァ書房 担当項目 : 「母と子 (赤ちゃん) のコミュニケーション」 98-99 (全217頁中2頁執筆)
12. 江尻 桂子 (2008) 『よくわかる乳幼児心理学』 内田伸子 (編) ミネルヴァ書房 (全204頁中、44頁執筆)
13. Ejiri & Uchida (2006) The intrinsic link between gesture and speech in the prelinguistic stage. The Handbook of East Asian Psycholinguistics Vol. 2 Japanese Nakayama, M., Mazuka, R. (Eds) Pp. 26-33. Cambridge University Press (UK) (全409頁中、8頁執筆)
14. 江尻 桂子 (2006) 『発達心理学キーワード』 有斐閣 (担当 : 2章「子どもはどれほど有能か?—発達初期の子ども能力」・3章「個性はどう育つか—気質と行動発達」) (全287頁中、48頁執筆)
15. 江尻 桂子 (2004) 『新・心理学の基礎知識』 中島・重耕・箱田 (編) 有斐閣 (担当項目 : 新生児模倣・新生児の行動状態) (全546頁中、2頁執筆)
16. 江尻 桂子 (2002) 『乳幼児心理学』 内田伸子 (監修) (担当 : 2章「乳児期の認識能力」・3章「発達初期の気質と行動」) 放送大学教育振興会 (全212頁中、22頁執筆)
17. 江尻 桂子 (2001) 『発達心理学』 無藤隆 (編) ミネルヴァ書房 (担当 : 2章「乳児の知的発達— 見ること、聞くことの発達—」) (全220頁中、11頁執筆)

3. 修士論文・博士論文**【修士論文】** 乳児における音声と身体運動の同期現象**【博士論文】** 乳児における音声発達の基礎過程－基準喃語の出現とリズムカルな運動の発達の関連**4. 論文**

○学術雑誌掲載論文(依頼論文・査読付論文)

1. Keiko Ejiri (2022), Employment, income, and health status among mothers of children with disabilities in Japan. *Developmental Psychology Forum*, Volume 1, Issue 97 Pages: 16-17. (Published online, 1 Dec 2022) DOI: 10.53841/bpsdev.2022.1.97.16 (依頼)
2. Ejiri, K. & Matsuzawa, A. (2019) Factors associated with employment of mothers caring for children with intellectual disabilities. *International Journal of Developmental Disabilities*. 65(4), 239-247. DOI:10.1080/20473869.2017.1407862 (査読付)
3. 松澤明美・江尻桂子 (2019) 「学齢期の障がい児を育てる母親の就労状態・就労希望と健康関連 QOL の関連」 *小児保健研究* 78(5), 445-452. (査読付)
4. 木名瀬公実子・江尻桂子 (2020) 若者における家族のケア経験とその生活への影響：大学生を対象とした質問紙および面接調査から考えるヤングケアラーへの今後の支援. *茨城キリスト教大学大学院生活科学研究科紀要*, 7, 33-44. 茨城キリスト教大学大学院生活科学研究科 (査読付)
5. 江尻桂子 (2018) 初期言語発達のランドマークとしての喃語の発達 (特集 I: 日本語の言語のランドマーク) *コミュニケーション障害学*, 35, 13-16. (依頼論文)
6. 江尻桂子 (2014) 「障害児の母親における就労の現状と課題－国内外の研究動向と展望」 *特殊教育学研究*, 51(5), 431-440 (査読付)
7. 江尻桂子 (2013) 「子どもの危険認知の発達のプロセスを知る－これからの防犯教育を考えるために－」 「特集: 子どもに必要な安全・安心とは」 *教育と医学*, 721, 58-64 (特集論文) 慶應義塾大学出版. (依頼論文)
8. 江尻桂子 (2012) 豊かな情緒発達を育むために－発達初期に求められる環境－. *子どもの発育発達* 10, 100-103. (特集論文) (依頼論文)
9. 江尻桂子 (2010) 幼児・児童における危険認知の発達：子どもの安全・防犯教育を考えるための発達心理学的アプローチ *発達心理学研究* 21(4), 332-341 (査読付)
10. 江尻桂子 (2003) ヒトの母子におけるコミュニケーションの豊かさを生み出したもの *ベビーサイエンス* vol.02, p. 31 (コメント論文) (依頼論文)
11. 江尻桂子 (2003) 音声言語獲得と身体 *言語獲得研究の新潮流* 月刊言語 vol132. No.8 (2003年8月号), 106-111. (依頼論文)
12. 江尻桂子 (2001) ことばと身体の関係から見た言語獲得 *児童心理学の進歩* (2001年版) 日本児童研究所 (編) 金子書房 77-100 (査読付)
13. Ejiri, K. & Masataka, N. (2001) Co-occurrence of preverbal vocal behavior and motor action in early infancy. *Developmental Science*. 4, (1) 40-48 (査読付)
14. 江尻桂子 (1999) わが国の最近1年間における教育心理学の研究動向と展望－言語発達・認知発達研究の動向と今後の課題－ *教育心理学研究年報* 38, 35-50
15. 江尻桂子 (1999) 言語獲得の基盤としての乳児の音声発達 小特集「話す仕組みを巡って：発話機構研究の最前線」 *日本音響学会誌* 55, 789-795. (依頼論文)
16. 江尻桂子・正高信男 (1999) 乳児における喃語と身体運動の同期現象－II. 音響分析による同期性の機能の検討 *心理学研究* 69(6), 433-440 (査読付)
17. 江尻桂子 (1998) 乳児における喃語と身体運動の同期現象－I. その発達的变化 *心理学研究* 68(6), 433-440. (査読付)
18. 江尻桂子 (1999) ろう児と健聴児の比較からみた前言語期の乳児の音声と身体運動の同期現象 *教育心理学研究* 47, 1-10. (査読付)
19. Ejiri, K (1998) Relationship between rhythmic behavior and canonical babbling in infant development. *Phonetica*. 54, 226-237 (査読付)
20. 江尻桂子 (1998) 乳児における規準喃語の出現とリズムカルな運動の発達の関連 *発達心理学研究* 9, 232-241. (査読付)
21. 江尻桂子 (1995) 子どもの描く想像画：その発達と教示による効果 *発達心理学研究* 5, 154-164 (査読付)

○大学紀要等 掲載論文(査読無)

22. 江尻桂子 (2023) 障害児の母親が就労に向けて職場や福祉サービスに求めること — 学齢期の知的障害児の母親を対象とした質問紙調査をもとに —, 第 57 号, 51-59.
23. Ejiri & Matsuzawa (2020) Employment, finance, and health status of single mothers raising children with intellectual disabilities in Japan. Journal of Ibaraki Christian University II. Social and Natural Sciences, 54, 119-129. (茨城キリスト教大学紀要・英文)
24. 江尻桂子(2020)「保育の心理学」授業実践報告—乳幼児・児童・生徒の発達と学習過程の理解を保育実践につなげるために— 『2020年度茨城キリスト教大学教職課程論集』p.6-10. 2021年3月31日発行 7-12. 茨城キリスト教大学教職課程委員会
25. 江尻桂子 (2020) エスカレーター利用者の行動に関する観察調査—今後の事故防止に向けて— おおみか教育研究, 23, 9-14. 茨城キリスト教大学文学研究科教育学専攻
26. 上野彩・江尻桂子 (2020) 命の認識はどのようにして育まれるか—大学生を対象とした質問紙調査にもとづく心理学的観点からの考察— おおみか教育研究, 23, 129-148. 茨城キリスト教大学文学研究科教育学専攻
27. 小島美由紀・江尻桂子 (2020) 心理学を学べば何がわかるようになるのか—大学生の心理学に対する認識とその心理学受講経験による影響— おおみか教育研究, 23, 69-81. 茨城キリスト教大学文学研究科教育学専攻
28. 中森千晶・江尻桂子 (2020) 大学生における不登校傾向および退学傾向に関する教育心理学的考察—大学生を対象とした質問紙調査をもとに— おおみか教育研究, 23, 31-43. 茨城キリスト教大学文学研究科教育学専攻
29. 江尻桂子・阿部まどか (2019) ひとり親世帯を対象とした支援に関する情報提供の在り方 茨城県の各市町村における子育て支援ガイドブックの内容分析をもとに. 茨城キリスト教大学紀要, 53, 129-140. 53.
30. 江尻桂子(2019)「保育の心理学 I」授業実践報告—乳幼児・児童・生徒の発達と学習過程の理解を保育実践に生かす— 『2018年度茨城キリスト教大学教職課程論集』2019年3月31日発行 7-12. 茨城キリスト教大学教職課程委員会
31. 江尻桂子(2018) 城戸奨励賞選考講評：利根川明子論文「教室における児童の感情表出と学級適応間の関連」 第 52 回 (2016 年度) 城戸奨励賞講評 教育心理学年報 Vol. 57, 350-351
32. 江尻桂子(2018)「保育の心理 I」授業実践報告—幼児・児童・生徒の心身の発達と学習過程に関する基礎的知識の習得のために—『2017年度茨城キリスト教大学教職課程論集』2018年3月31日発行 p20-24 茨城キリスト教大学教職課程委員会
33. 江尻桂子 (2017)「言語の発達と障害：授業実践報告」『2016年度教職教養に関する研究・実践報告集』2017年3月31日 p71-75
34. 江尻桂子・武居渡・松澤明美 (2015)「心理・教育・看護の研究実践から考える障害のある子どもの家族への支援」茨城キリスト教大学紀要, 49, 285-229
35. 江尻桂子 (2016) 心理・教育・看護の視点から考える障害児家族支援—各専門領域はこの問題をどう捉え、取り組んできたのか—, 第 53 回自主シンポジウム報告. 特殊教育学研究, 53, 386-387.
36. 江尻桂子 (2015)「保育の心理学 I 授業実践報告」『2014年度教職教養に関する研究・実践報告集』2015年3月 p.28-32
37. 江尻 桂子・松澤明美 (2013)「障害児を育てる家族における母親の就労の制約と経済的困難 —障害児の母親を対象とした質問紙調査より—」 茨城キリスト教大学紀要, 47, 43-50.
38. 江尻 桂子 (2009) 対話における聞き手の反応傾向が対人魅力に及ぼす影響 おおみか教育研究, 第 12 巻, 1-9.
39. 江尻 桂子・内田伸子 (2008) 幼児・児童における既知・未知人物に対する危険認知の発達「幼児の安全教育に関する総合的研究—幼児の危険認知の発達に及ぼす社会・文化的要因の影響」 財団法人セコム科学技術振興財団研究助成平成 19 年度研究成果報告書 Pp. 47-59
40. 江尻 桂子・内田伸子 (2007) 幼児・児童における見知らぬ人物に対する認知の発達 「幼児の安全教育に関する総合的研究—幼児の危険認知の発達に及ぼす社会・文化的要因の影響」 財団法人セコム科学技術振興財団研究助成平成 18 年度研究成果報告書 Pp. 73-79
41. 江尻 桂子・内田伸子 (2006) 幼児・児童における見知らぬ人物に対する認知の発達 「幼児の安全教育に関する総合的研究—幼児の危険認知の発達に及ぼす社会・文化的要因の影響」 財団法人セコム科学技術振興財団研究助成平成 17 年度研究成果報告書 Pp. 47-55
42. 江尻 桂子・武居渡 (2006) 言語獲得期における指さしと発生の声の関係：聴覚障害児の母子コミュニケーションの分析から 言語文化研究所紀要 第 11-12 合併号 茨城キリスト教大学言語文化研究所 p. 57-62
43. 江尻 桂子 (2006) 聴覚障害児と健聴児の指さしに見る発話と身ぶりの発生起源 人間福祉論集 vol. 4 茨城キリスト教大学生活科学部人間福祉学科 p.9-14 2006年4月

44. 江尻 桂子(2005) 子育てを通して考える福祉の問題(1) 人間福祉論集 vol.3 p.15~21 2005年3月
45. 江尻 桂子(2003) 初期言語行動の発達—音声と身体運動の同期現象をめぐって— お茶の水女子大学 21世紀COEプログラム 平成14年度セミナー報告書 P1-11~P1-20
46. 江尻 桂子(2003) 赤ちゃんのことばの発達 赤ちゃん和妈妈(第38巻12号:2003年12月号) 赤ちゃん和妈妈社 16-21.
47. 江尻 桂子(2000) 原子力災害時の情報伝達—東海村JCO臨界事故後の住民調査から— 茨城キリスト教短期大学紀要 40 135-162
48. 江尻 桂子(2000) 言語スタイル形成過程に関わる社会・文化的要因の開明 松下国際財団研究成果報告書(1998年度後期) 松下国際財団 25-26
49. 江尻 桂子(2000) 心理学実験演習 フィールドワーク報告 創造 シオン短期大学
50. 江尻 桂子(1999) 心理学を学べば何がわかるのか—大学生の心理学観と、その心理学教育による変化— シオン短期大学紀要 39 121-129.
51. 江尻 桂子(1998) 乳児における喃語発達の過程 お茶の水女子大学人間文化研究科年報 第21号 114-122.
52. 江尻 桂子(1997) 初期言語発達の過程とそれを支える諸要因 —身体運動と喃語発達の関連を探る新たなアプローチ— お茶の水女子大学人間文化研究科年報 第20号 287-294
53. 勝原佐和・池内桂・森津太子・江尻桂子・薬師神玲子・山上真貴子(1994) 女子大学生の就業形態決定に関する要因 人間発達研究 19, 43-51

合計 53 件 (うち査読付 13 件、SCOPUS 掲載論文 6 件、Web of Science 掲載論文 11 件)

5. 学会発表

○国内学会発表

1. 江尻 桂子・三橋翔太・斎藤遼太郎(2025)「障害児の養育者の就業状況とニーズはこの10年で変化したか—障害のある児童生徒の保護者を対象とした調査結果から—」日本発達心理学会第36回大会論文集, 305頁 明星大学 2025年3月5日 ポスター発表
2. 齋藤慈子・江尻桂子・久保(川合)南海子・仲真紀子(2025)「ワーク・ライフ・バランスの話をしよう(5): 怒涛のワークとライフ, 狭間でこそ生まれる適応戦略や技とは?」(ラウンドテーブル企画者: 齋藤・江尻・久保(川合)・仲、話題提供者: 小川翔太・木村美奈子) 日本発達心理学会第36回大会 2025年3月4日 明星大学
3. 江尻 桂子・三橋翔太(2024) 障害児の母親の就労に関する文献レビュー: システマティック・レビューの手続きを用いた予備的検討, 日本発達心理学会第35回大会発表論文集, 333頁, 大阪国際交流センター 2024年3月7日 (ポスター発表)
4. 江尻桂子・久保(川合)南海子・齋藤慈子・仲真紀子(2024)「ワーク・ライフ・バランスの話をしよう(4): ワークとライフはバランスじゃない! コラボや合わせ技のすすめ」(ラウンドテーブル企画者: 江尻・久保(川合)・齋藤・仲、話題提供者: 富田昌平・加藤道代) 日本発達心理学会第35回大会 2024年3月7日 大阪国際交流センター
5. 畑野快・江尻桂子(2023) 中等教育における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の支援, 日本心理学会公開シンポジウム, 2023年11月5日(日) 14:00-16:30 Zoom ウェビナー (企画・司会: 畑野 快・江尻 桂子、話題提供者: 岡田 涼・瀬尾 美紀子・登本 洋子・三村 菜仁、指定討論者: 奈須正裕)
6. 江尻桂子・松澤明美(2023) 障害児の母親が職場と福祉サービスに求めること—知的障害の有る児童生徒の母親を対象とした質問紙調査をもとに— [2D-026-PD] 日本心理学会第87回大会 神戸国際会議場 2023年9月16日
7. 江尻桂子(2022)「ワーク・ライフ・バランスの話をしよう(2): 子育て・親の看取りを通して考えた『大切なこと』」(企画・ファシリテーター: 江尻桂子・齋藤慈子・久保南海子、話題提供: 滝口圭子・仲真紀子) 日本発達心理学会第33回大会 会員企画ラウンドテーブル 2022年3月6日
8. 江尻桂子(2022)「誰もが無理なく楽しく活躍できる面白い学会とは—日本発達心理学会の将来を展望した研究活性化に向けて」(企画: 日本発達心理学会将来構想検討WG研究活性化小委員会、司会: 秋田喜代美・成田健一、ファシリテーター: 伊藤大幸・江尻桂子・奥村優子・中川威・畑野快・林創・無藤世良、指定討論: 氏家達夫) 日本発達心理学会第33回大会 学会企画ラウンドテーブル 2022年3月7日
9. 江尻桂子・仲真紀子(2021)「ワーク・ライフ・バランスの話をしよう(1): 仕事と家庭(ケア・ワーク)、どう両立させる?」(会員企画ラウンドテーブル: 企画者) (話題提供者: 齋藤慈子・久保(川合)南海子) 日本発達心理学会第32回大会 (Web開催) 29PM1-1F-RT6 2021年3月29日
10. 江尻桂子(2021)「研究倫理をどう考える: 原理、行動、執筆・投稿に向けて」(学会企画シンポジウム・話題提供者) 日本発達心理学会第32回大会 (Web開催) 29AM1-1A-BS 2020年3月29日
11. 江尻桂子・阿部まどか(2020)「ひとり親世帯への支援に関する情報提供の在り方を考える—子育て支援ガイドブックの内容分析をもとに—」 日本発達心理学会第31回大会 PS8-27 大阪国際会議場(2020

- 年 3 月 4 日)
12. 江尻桂子 (2019) 「社会全体での子育て」を目指して一障がい児の家族支援を通して考えるこれからの子育て— (企画・司会・話題提供: 江尻桂子、話題提供: 武居渡、指定討論: 久保 (川合) 南海子・仲真紀子) 日本発達心理学会第 30 回大会 早稲田大学 2019 年 3 月 17 日~19 日
 13. 江尻桂子・松澤明美 (2018) 障害児の母親が考える「就労のために必要な事」日本特殊教育学会第 56 回大会 (グランキューブ大阪) P7-68 2018 年 9 月 24 日
 14. 江尻桂子・松澤明美 (2018) 障害児を育てる母子世帯における生活状況 日本発達心理学会第 29 回大会 論文集 P7-33. 東北大学 P7-33 2018 年 3 月 25 日 (ポスター発表)
 15. 江尻桂子 (2018) 「初期言語発達における身体的基盤—乳児の喃語発達に着目して—」 ラウンドテーブル『認知発達と身体性—イメージ操作、言葉および数の発達の観点から—』(話題提供) 日本発達心理学会第 29 回大会論文集. RT8-5. 東北大学 2018 年 3 月 25 日
 16. 江尻桂子 (2017) 「初期言語発達のランドマークとしての喃語の発達—乳児の発声はなぜ、どのようにして変化してゆくのか—」 シンポジウム『日本語の言語発達のランドマーク』第 43 回日本コミュニケーション障害学会学術講演会 (愛知淑徳大学)
 17. 江尻桂子・松澤明美 (2017) 障がい児の母親における仕事と育児の両立困難とその関連要因 日本発達心理学会大会第 28 回大会発表論文集 P7_39. 広島大学 (広島国際会議場)
 18. 江尻桂子・松澤明美 (2016) 障がいのある子どもを育てる母親の心と身体の健康—健康関連 QOL 尺度を用いた標準値との比較— 日本発達心理学会大会第 27 回大会論文集. PD-54. (2016 年 4 月 30 日 北海道大学)
 19. 江尻桂子・松澤明美 (2016) 障害児を育てるひとり親家庭の就労・収入・健康—障害児の母親を対象とした質問紙調査の分析から— 第 54 回日本特殊教育学会大会 P1_25. (2016 年 9 月 18 日 新潟大学)
 20. 江尻桂子・武居渡 (2015) (シンポジウム企画) 「心理・教育・看護の視点から考える障害児家族支援—各専門領域はこの問題をどう捉え、取り組んできたのか—」第 53 回日本特殊教育学会自主シンポジウム 28. 2015 年 9 月 19 日. 東北大学 (仙台) (話題提供者: 江尻桂子・武居渡・松澤明美、指定討論者: 宮内久絵)
 21. 江尻桂子・松澤明美 (2015) (シンポジウム話題提供者) 「障がい児を育てる母親の就労問題—国内外の研究動向と最近の国内調査研究からの示唆—」 『心理・教育・看護の視点から考える障害児家族支援—各専門領域はこの問題をどう捉え、取り組んできたのか—』第 53 回日本特殊教育学会自主シンポジウム 28. (2015 年 9 月 19 日. 東北大学)
 22. 江尻桂子・松澤明美 (2015) 障害児の母親の就労に影響を与える要因—障がい児の母親を対象とした調査研究をもとに. 日本心理学会第 79 回大会 (2015 年 9 月 24 日. 名古屋国際会議場)
 23. 江尻桂子・松澤明美 (2015) 障害児の母親 における就労を制限する要因—就労を希望する理由・しない理由の分析をもとに 日本発達心理学会大会第 26 回大会論文集. (2015 年 3 月 21 日 東京大学)
 24. 江尻桂子・天野秀哉 (2014) 「幼児は水平の障害物をいかに回避するか—「またぐ・くぐる」の選択におよぼす環境要因の検討」 日本教育心理学会大会第 56 回大会発表論文集. (2014 年 11 月 9 日 神戸国際会議場)
 25. 江尻桂子・松澤明美 (2014) 「障害児を育てる母親における仕事と育児の両立に対する主観的困難度」日本公衆衛生学会第 73 回総会抄録集. P0506-4. 2014 年 11 月 6 日. 宇都宮ホテル (栃木)
 26. 江尻桂子・松澤明美 (2014) 「障害児を育てる母親における就労の現状とその関連要因を探る—障害児の母親を対象とした調査から—」日本心理学会第 78 回大会発表論文集. (2014 年 9 月 11 日 同志社大学)
 27. 江尻桂子・天野秀哉 (2014) 「幼児は水平の障害物をどのように回避するか—「またぐ・くぐる」行為の実験状況の違いによる比較」 日本発達心理学会大会第 25 回大会発表論文集. 205. (2014 年 3 月 21 日 京都大学)
 28. 江尻桂子・天野秀哉 (2013) 「幼児の障害物回避行動に関する実験研究 —4~6 歳児におけるまたぐ・くぐる行為の発達の予備的検討—」 日本教育心理学会第 55 回総会発表論文集, 396. (2013 年 8 月 18 日 法政大学)
 29. 江尻桂子・松澤明美 (2013) 「障害児をもつ母親の就労と育児ストレスの関係 障害児家族を対象とした質問紙調査の分析から」 日本特殊教育学会第 51 回大会発表論文集, P4-E-1. (2013 年 8 月 31 日 明星大学)
 30. 江尻桂子 (2013) 「身体に支えられる認知: 言語習得における身体的基盤」日本発達心理学会出版企画委員会企画シンポジウム話題提供 (2013 年 3 月 16 日 明治学院大学)
 31. 江尻桂子・松澤明美 (2012) 障害児家族における経済状況と母親の就労. 日本特殊教育学会第 50 回大会論文集, P2-A-5 (筑波大学)
 32. 江尻桂子・上野彩 (2012) 「大学生における命の認識: 大学生を対象とした質問紙調査から」 日本発達心理学会第 23 回大会発表論文集 p. 410 名古屋国際会議場 2012 年 3 月 10 日
 33. 江尻桂子・松澤明美 (2011) 「障がい児の母親における就労の現状と課題—障がい児の母親へのインタビュー調査をもとに」日本臨床発達心理士会第 7 回全国大会論文集, 70. (2011 年 9 月 3 日 横浜国立大学)

34. 江尻桂子・吉田真奈美 (2010)「スクールカウンセラー派遣事業の現状と課題 (1) 教員・スクールカウンセラーへのインタビュー調査をもとに」日本教育心理学会第 52 回総会論文集 449 早稲田大学 2010 年 8 月 27 日
35. 江尻桂子 (2010) 子どもの危険認知能力を保護者はどう認識しているか ―保護者を対象としたアンケート調査から. 日本発達心理学会第 21 回大会論文集 p. 571. 神戸国際会議場 2010 年 3 月 28 日
36. 江尻桂子 (2009) 子どもの防犯に対する保護者の意識 ―幼児・学童の保護者を対象としたアンケート調査から. 日本発達心理学会第 20 回大会論文集 p 248. 日本女子大学 2009 年 3 月 23 日
37. 江尻 桂子 (2008) 幼児・児童における危険状況の認知の発達 (2) いかなる状況で、子どもは既知・未知人物についていくのか. 日本発達心理学会第 19 回大会論文集 p750. 大阪国際会議場 (追手門学院大学) 2008 年 3 月 21 日
38. 江尻 桂子 (2007) . 幼児・児童における危険状況の認知の発達―子どもの安全教育を考えるための発達心理学的アプローチ―. 日本発達心理学会第 18 回大会論文集 p643. 埼玉大学 2007 年 3 月 26 日
39. 江尻 桂子 (2006) 幼児・児童における見知らぬ人物に対する認知の発達過程 シンポジウム話題提供者「リスク社会における幼児の危険認知の発達」日本発達心理学会第 17 回大会 九州大学 2006 年 3 月
40. 江尻 桂子 (2005) 聴者の親をもつ聾児における身ぶりの発達 日本心理学会第 69 回大会発表論文集 2005 年 9 月 12 日
41. 江尻 桂子・武居 渡 (2005) ろう児と健聴児における発声と指さしの同期的関係 日本発達心理学会第 16 回大会発表論文集 p. 484 神戸国際会議場 2005 年 3 月 28 日
42. 江尻 桂子 (2002) 乳児におけることばと身体の関係 日本発達心理学会第 13 回大会発表論文集
43. 江尻 桂子 (2001) 母親の育児語使用と子どもの言語発達―質問紙を用いた予備的調査― 日本教育心理学会第 43 回総会発表論文集
44. 江尻 桂子 (2000) 災害時の情報伝達―東海村 JCO 臨界事故後の調査から― 日本心理学会第 64 回大会発表論文集 p. 89 京都大学 2000 年 11 月 6 日
45. 江尻 桂子 (1998) 喃語期の乳児におけるリズムカルな運動の発達 日本心理学会第 62 回大会発表論文集 p. 310 東京学芸大学 1998 年 10 月 10 日
46. 江尻 桂子 (1998) 《小講演》乳児における音声発達の基礎過程：規準喃語の出現とリズムカルな運動の発達の関連. 日本心理学会第 62 回大会発表論文集 p. S93 東京学芸大学 1998 年 10 月 8 日
47. 江尻 桂子 (1998) 乳児における規準喃語の出現とリズムカルな運動の発達の関連 日本発達心理学会第 9 回大会発表論文集 p. 128. 1998 年 3 月 26 日 日本女子大学
48. 江尻 桂子 (1997) 前言語期のろう児における喃語の産出と身体運動の同期現象 日本発達心理学会第 8 回大会論文集 p. 229. 1997 年 3 月 28 日 大阪大学
49. 江尻 桂子・正高 信男 (1997) 前言語期の乳児における発声と身体運動との同期現象：その発達の变化と喃語発達に及ぼす影響 日本乳児行動発達研究会設立記念大会 1997 年 4 月 東京慈恵医科大学
50. 江尻 桂子・正高 信男 (1996) 身体運動との同期は喃語の発達にどのような影響を及ぼすか 日本心理学会第 60 回大会論文集 p. 238. 1996 年 9 月 10 日. 立教大学
51. 江尻 桂子 (1995) 乳児における音声と身体運動の同期現象 日本発達心理学会第 6 回大会論文集 p. 49. 1995 年 3 月 29 日 同志社大学

○国際学会発表

54. Ejiri, K. (2022) (招待講演) Employment, income, and health status among mothers of children with disabilities in Japan. BPS Developmental Psychology Section 2022, Sheffield, UK. September 15th, 2022
55. Ejiri, K. & Matsuzawa, A. (2021) (口頭発表) Mental and physical health status of Japanese mothers with children with intellectual disabilities. The 32nd International Conference of Psychology, Prague, Czech Republic, July, 2021. (Oral presentation)
56. Ejiri, K. & Matsuzawa, A. (2019) (口頭発表) Employment, income, and health-related QOL among mothers caring for children with disabilities in Japan. SRCDD Biennial Meeting, Baltimore, USA. March, 2019. (Oral presentation) (査読付)
57. Ejiri, K. & Matsuzawa, A. (2018) (ポスター発表) Single mothers caring for children with disabilities in Japan: Employment, financial, and health status. The 25th Biennial Meeting of ISSBD, Gold Coast, Australia, July, 2018. (Poster presentation)
58. Ejiri, K. & Matsuzawa, M. (2016) (口頭発表および口頭発表セッションの座長) Employment, financial, and health issues of mothers caring for children with disabilities in Japan. (Oral presentation). The 31st International Conference of Psychology 2016 (ICP2016), Yokohama, Japan, July 27th.
59. Ejiri, K. (2016) (招待シンポジウム・話題提供者) Synchrony of preverbal vocal behavior and rhythmic motor action in early infancy. in Invited Symposium titled "Synchrony as the foundation of cognitive and social development: Mother-infant co-manipulation of time structure" organized by Toyama, N. & Negayama, K. The 31st International Conference of Psychology 2016 (ICP2016), Yokohama, Japan, July 28th. Yokohama

60. Ejiri,K. (2012) (ポスター発表) The development of children's knowledge about dangerous situations. Abstract presented at 22nd biennial Meeting of International Society for the study of Behavioral Development, Edmonton, Alberta, Canada (June, 2012)
61. Ejiri,K. (1998) (ポスター発表) Developmental relationship between onset of canonical babbling and rhythmic manual activity. Paper presented at The XVth Biannual Meetings of the International Society for the Study of Behavioral Development (ISSBD), p.545. July 4, 1998, Berne, Switzerland.
62. Ejiri,K. (1998) (シンポジウム・話題提供者) Pre-canonical babbling vocalizations synchronize with rhythmic body movements before the onset of canonical babbling. Paper presented at The XVth Biannual Meetings of the International Society for the Study of Behavioral Development (ISSBD), p.218. July 3, 1998, Berne, Switzerland.
63. Ejiri,K. (1996) (シンポジウム・話題提供者) Synchronization between preverbal vocal behaviors and motor actions in early infancy. "Current topics in babbling research" 日本心理学会第 60 回大会 1996 年 9 月 12 日 立教大学

合計 64 件 (うち国際学会 10 件、招待講演 2 件、基調講演 0 件、査読付 1 件)

6. 外部資金獲得状況 (科研費、科研費以外の公的研究費、その他民間機関からの研究費等、いずれも研究代表者に限る)

1. [令和 7 年~令和 9 年度] 科学研究費助成金 (基盤 C) 「障害児をケアする家族の就業と健康—実態把握と包括的支援に向けた大規模調査研究—」
2. [令和 2 年~令和 6 年度] 科学研究費助成金 (基盤 C) 「障害児をケアする家族の生活と心身の健康—ひとり親家庭に焦点をあてて—」
3. [平成 25 年~平成 29 年度] 科学研究費助成金(基盤 C) 「障害児をケアする家族におけるワークロスの問題：その生起メカニズムと支援策を探る」
4. [平成 25 年度] 茨城キリスト教大学 2013 年度研究助成金 「幼児の運動能力と危険回避行動についての実験研究 —子供の事故防止に向けての発達心理学および体育学からのアプローチ—」
5. [平成 24 年度] 平成 24 年度ユニバーサル財団研究助成金 障害児の母親における就労とその影響要因 —障害児家族支援への新たなアプローチ—
6. [平成 23 年度] 茨城キリスト教大学 2011 年度研究助成金 「障害児家族におけるワーク・ロスの現状とその影響要因」
7. [平成 19-21 年度] 文部科学省科学研究費助成金 (若手研究 B) 「幼児児童における危険状況の認知発達：子どもの安全教育に関する心理学的研究」
8. [平成 16-17 年度] 文部科学省科学研究費助成金 (若手研究 B) 聾児と健聴乳児における指差しと音声の同期的関係
9. [平成 12-13 年度] 文部科学省科学研究費助成金 (奨励研究 A) 成人の育児語使用と子どもの言語発達
10. [平成 12 年度] 文部科学省科学研究費補助金 (研究成果公開促進費：学術図書) 研究課題：「乳児における音声発達の基礎過程」
11. [平成 11 年度] 松下国際財団研究助成金 「言語スタイル形成過程に関わる社会・文化的要因の解明—母子相互交渉の日米比較から—」
12. [平成 8-10 年度] 文部科学省科学研究費助成金 (特別研究員奨励金) 「乳児におけることばと身振りの関係」

合計 12 件 (うち科研費 7 件、科研費以外の公的研究費 5 件)

7. 研究活動における受賞歴

1999 年度「城戸奨励賞」受賞 (日本教育心理学会)

受賞論文：江尻桂子 (1999) ろう児と健聴児の比較からみた前言語期の乳児の音声と身体運動の同期現象 教育心理学研究 47, 1-10.

8. 特許・実用新案

該当なし

9. 日本以外の国における研究歴

1999 年 1 月 米国メイン州立大学言語障害科学部客員研究員 (1999 年 3 月まで)

10. 海外機関との共同研究等の実績、その他研究活動上特記すべき事項

該当なし

教育研究業績Ⅱ：教育活動

「記入要領」を参照のうえ、以下の項目順に記載してください。

※該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。

※すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

1. 教育活動における受賞歴、教育面での評価（ティーチングアワード等） 該当なし

2. これまで担当した主な科目

非常勤講師として

- ・ 1998年9月 茨城大学「心理学入門」（一般教養科目）（1999年3月まで）
- ・ 2002年4月 放送大学「乳幼児心理学（TV）」講師（2004年3月まで）
- ・ 2005年4月 お茶の水女子大学文教育学部人間社会科学科「発達心理学演習」（2005年9月まで）
- ・ 2018年11月 東京工業大学 環境・社会理工学院「企業家精神と資金調達」（オムニバス形式「家族のケアとビジネス」）（2021年3月まで）
- ・ 2025年7月 早稲田大学文学研究科（大学院）「心理学研究11」（夏季集中講義・2025年8月まで）

専任教員として（茨城キリスト教大学）

授業科目名(学部)	担当年度・学期	対象学部・学年など
保育の心理学	2018～2024年度	文学部児童教育学科1年
言語の発達と障害	2018～2024年度	文学部児童教育学科3年
言語発達心理学	2018～2024年度	文学部児童教育学科2年以上
子ども家庭支援論	2018～2024年度	文学部児童教育学科2年
児童教育・幼児保育演習Ⅰ～Ⅳ	2018～2024年度	文学部児童教育学科3・4年
教育基礎演習(初年度ゼミ)	2018～2024年度	文学部児童教育学科1年
卒業研究	2019年・2024年度	文学部児童教育学科4年
家族を考える(教養科目)	2018～2024年度	全学部1～4年
発達心理学特論/演習	2019～2024年度	大学院生活科学研究科心理学専攻
障害者支援特論	2023年度	大学院看護学研究科看護学専攻
教育学課題研究Ⅰ～Ⅳ(修士論文指導)	2018～2019年度	大学院文学研究科教育学専攻

3. 直近3年間の論文指導学生数 該当なし

4. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)、日本語以外の教育歴

Ejiri, K. (2023) Work-Life Balance Issues in Japan. Special Class for students from Oklahoma Christian University. May 26, 2023. Ibaraki Christian University (オクラホマクリスチャン大学短期留学生対象/英語による講義)

5. 作成した教科書、教材、参考書

発達心理学—保育・看護・福祉プリマーズシリーズ（分担執筆）	ミネルヴァ書房：平成13年10月15日
乳幼児心理学（分担執筆）	放送大学教育振興会：平成14年3月20日
発達心理学キーワード（分担執筆）	有斐閣：平成18年2月10日
よくわかる乳幼児心理学（分担執筆）	ミネルヴァ書房：平成20年1月15日
よくわかる家族心理学（分担執筆）	ミネルヴァ書房：平成22年2月25日
発達の基盤：身体、認知、情動（発達科学ハンドブック第4巻）（分担執筆）	新曜社：平成24年9月20日
あたらしい言語障害のみかた・治療・教育（分担執筆）	古今社：平成25年
初等教育資料（分担執筆）	文部科学省：令和元年5月

6. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし

7. 教育方法に関するセミナー・研修等の受講歴 該当なし

8. 日本以外の国における教育活動歴とその言語 該当なし

9. その他教育活動上特記すべき事項 該当なし

教育研究業績Ⅲ：専門分野に関する実務経験

「記入要領」を参照のうえ、以下の項目順に記載してください。

※本書式は主に実務者の方が記入されることを想定した書式です。

※該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。

※すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

1. 専門分野に関する実務経験

1. 【講師】「子どもの発達段階と大人のかかわり方」令和6年度女性の就業支援講座『子どもにかかわる仕事がしたい！女性のためのキャリア講座』（日立市生活環境部女性若者支援課主催） 場所：日立シビックセンター 2025年2月17日
2. 【子育て支援講座】子育て応援サロン「アンネローゼひろば」第2回：みんなで考える「これからの子育て」（講師：江尻桂子）（共催：茨城キリスト教大学地域・国際交流センター・カウンセリング子育て支援センター） 2024年6月11日
3. 【講師】「ことばを育む教育とは—幼児の発達をふまえた言語環境・言語活動を考える」茨城県水戸市見川幼稚園（茨城県内原特別支援学校・特別支援教育巡回相談に係る指導・助言） 2024年1月18日
4. 【講師】「はじめての子育て—どう楽しむ？どう乗り切る？」令和5年度第1回『発達段階に応じた子育て講座』 日立市子どもセンター主催 日立市大久保交流センター 2023年6月24日
5. 【講師】「子どもの発達と心理」令和3年度女性の人材育成講座『子どもにかかわるお仕事探検講座』（日立市生活環境部女性若者支援課主催） 場所：日立シビックセンター 2022年2月10日
6. 【講演】「子育ては楽しいは本当？—発達心理学から言えること—」令和3年度親の学び講座（日立市子どもセンター主催）大久保交流センター 2021年10月21日
7. 【講演】「園での生活を通して育まれる子どもの心とからだの育ち—保育園や幼稚園等への入園に向けての10のアドバイス—」令和2年度親の学び講座（日立市子どもセンター）会瀬青少年の家体育館 2020年9月11日
8. 【講師】「子どもの発達と心理」日立市女性の就業支援講座『子どもにかかわるお仕事探検講座』 日立シビックセンター 2020年1月31日
9. 【指導助言】茨城県特別支援教育専門家派遣事業（計画派遣型）茨城県内原特別支援学校 「発達段階に応じた対話的学びの視点」2019年12月
10. 【指導助言】茨城県特別支援教育専門家派遣事業（計画派遣型）茨城県北茨城特別支援学校 小学部・中学部指導助言「自立活動及び統合的な探究の時間等の授業実践」2019年10月
11. 【講演】茨城県特別支援教育専門家派遣事業（計画派遣型）茨城県内原特別支援学校 「発達段階に応じた対話的学びの視点」2019年7月19日
12. 【講演】 日立市子どもセンター講座 『がんばらない子育てのススメ—大切にしたい、子どもの気持ち・親のきもち』 2019年7月28日
13. 【講師】 日立市潜在保育士支援講座 『子どもを知ろう』2019年2月
14. 【指導助言】茨城県特別支援教育専門家派遣事業（計画派遣型）茨城県立北茨城特別支援学校 2018年10月
15. 【講師】 茨城キリスト教大学教員免許更新講習「幼児教育の理論と実践」2018年8月
16. 【専門的知識の提供／研究発表】「乳児における喃語と身体運動の同期現象：音声発達における機能的役割」東京工業大学環境社会理工学院西條美紀研究室 2018年7月
17. 【講師】「子どもの社会性・主体性を育む—発達心理学の視点から—」茨城県特別支援教育専門家派遣事業（計画派遣型）茨城県北茨城特別支援学校 2018年6月
18. 【指導助言】茨城県特別支援教育専門家派遣事業（計画派遣型）日立市内幼稚園園・指導助言 2018年3月
19. 【講師】潜在保育士支援講座「発達心理学」茨城県日立市 日立シビックセンター 2017年11月
20. 【指導助言】茨城県特別支援教育専門家派遣事業（計画派遣型）日立市内幼稚園園指導助言 2017年11月
21. 【小学校PTA講演・講師】「子どもの心を育むために、いま大人ができること—発達心理学の立場から」茨城県日立市立金沢小学校 2017年10月29日
22. 【市民講座】平成29年度茨城県弘道館アカデミー県民大学前期講座 「子育ての悩みをどう理解し、解決するか」 茨城キリスト教大学 2017年9月
23. 【講習会・講師】臨床発達心理士指定科目取得講習会・講師 「言語発達とその支援に関する科目（発達の基礎）「言葉の理解と産出」文京学院大学 2017年7月
24. 【専門家派遣】茨城県特別支援教育専門家派遣事業（計画派遣型）日立市内幼稚園園・指導助言 2016年11月

25. 【研修会】特別支援学校自立活動指導力向上研修会：第2回研修会（事例検討会）「コミュニケーションに困難のある児童生徒の理解のためにー発達心理学の立場からー」内原特別支援学校 2016年11月
26. 【講習会】教員免許更新講習「幼児教育の理論と実践」 2016年8月
27. 【講習会】臨床発達心理士指定科目取得講習会・講師 「言語発達とその支援に関する科目（発達の基礎）「言葉の理解と産出」白百合女子大学 2016年7月
28. 【研修会】内原特別支援学校自立活動指導力向上研修会：第1回研修会（講演）「コミュニケーションに困難のある児童生徒の理解のためにー発達心理学の立場からー」茨城県立内原特別支援学校 2016年7月
29. 【市民講座】「家族介護者の心とからだの健康を考える」日立市民カレッジ 茨城キリスト教大学 2016年6月
30. 【講習会】臨床発達心理士指定科目取得講習会・講師 「言語発達とその支援に関する科目（発達の基礎）「言葉の理解と産出」椙山女学園大学 2016年5月
31. 【講習会】「家族の介護、どうしたら無理なく続けられますか？」 筑波大学みんなのラボラトリー・カフェ 話題提供 Biviつくば筑波大学サテライトオフィス 2016年2月23日

2. 専門分野に関する実務経験上、特記すべき事項

該当なし

教育研究業績Ⅳ：所属学会、保有資格、その他

「記入要領」を参照のうえ、以下の項目順に記載してください。

※該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。

※すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

1. 所属学会・役職等

○所属学会：

日本心理学会、日本発達心理学会、日本教育心理学会、日本特殊教育学会

○所属学会における役職

【日本発達心理学会】

- ・日本発達心理学会事務局長（2024年4月～2026年3月）
- ・日本発達心理学会将来構想検討ワーキンググループ:研究活性化小委員会委員（2021年4月～2021年10月）
- ・日本発達心理学会機関誌「発達心理学研究」編集委員長（2020年1月～2020年12月）・編集副委員長（2019年1月～2019年12月）
- ・

【日本心理学会】

- ・日本心理学会 専門別代議員（第二部門：発達部門）（2025年3月～2027年2月）
- ・日本心理学会 専門別代議員（第二部門：発達部門）（2022年4月～2025年3月）
- ・日本心理学会 教育研究委員会 講演出版等企画等小委員会・委員長（2021年11月～2023年10月）
- ・日本心理学会 専門別代議員（第二部門：発達部門）（2023年7月～2025年6月）
- ・日本心理学会 専門別代議員（第二部門：発達部門）（2021年7月～2023年6月）

2. 保有資格等

- ・保育士（登録番号:茨城県 031679）
- ・臨床発達心理士（登録番号：00963）、心理学検定1級（登録番号：080579）

3. その他

- ・日立市子ども子育て新制度会議・会長（平成27年～令和7年7月）
- ・文部科学省初等中等教育局幼児教育課「障害のある幼児とともに育つ生活の理解と指導」作成協力者（2020年2月1日～2023年3月31日）
- ・茨城県社会福祉審議会委員（平成28年7月～令和4年6月）